

令和6年度高等学校入学者選抜審議会 第2回専門委員会

日時 令和6年10月31日（木）

午後2時～午後4時

場所 行政庁舎11階 第二会議室

次 第

1 開 会

2 報告・審議

（1）【報告】第1回入学者選抜審議会における審議内容の確認について

（2）【報告】大阪府立高等学校の視察について

（3）【審議】i d e a l スクールにおける入学者選抜の在り方について

3 その他

4 閉 会

【 資料 】

○ 第2回専門委員会 報告・審議関係資料

○ 第2回専門委員会 補助資料

○ 令和7年度 宮城県公立高等学校入学者選抜 求める生徒像・選抜方法一覧

高等学校入学者選抜審議会条例

(昭和28年3月28日条例第40号)

最終改正 平成24年12月条例第71号

第1条 教育委員会の諮問に応じ、高等学校の通学区域の検討、入学者の選抜の方法及びその実施並びに学力検査問題の作成について調査審議するため、高等学校入学者選抜審議会（以下「審議会」という。）を置く。

第2条 審議会は、30人以内の委員で組織する。

2 審議会に、専門の事項を調査研究させるため、専門委員を置く。

第3条 委員及び専門委員は、学校の教職員、総合教育センターの職員、教育庁の職員及び学識経験者のうちから教育委員会が任命又は委嘱する。

第4条 委員の任期は二年とする。ただし、補欠による委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 教育委員会が必要と認めたときは、前項の規定にかかわらず、任期中においても当該委員を解職することができる。

3 専門委員は、当該専門の事項に関する調査研究が終了したときは、退任するものとする。

第5条 審議会に、委員長及び副委員長各一人を置き、委員の互選によって定める。

2 委員長は、会務を掌理する。

3 副委員長は、委員長に事故あるとき、その職務を代行する。

第6条 審議会の会議は、必要に応じて委員長が招集する。

第7条 この条例に定めるものを除く外、審議会の議事の手続その他審議会の運営に関し必要な事項は、委員長が会議にはかつて定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（昭和47年10月11日条例第27号抄）

（施行期日）

1 この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平成24年12月20日条例第71号抄）

（施行期日）

1 この条例は、平成25年4月1日から施行する。

第2回高等学校入学者選抜審議会専門委員会 名簿

(專門委員)

No.	氏 名	現 職	備 考
1	熊谷 龍一	東北大学大学院教育学研究科 教授	入選審委員
2	佐藤 英	宮城県PTA連合会 副会長	入選審委員
3	菊池 晃子	名取市立増田中学校 校長	入選審委員
4	吉田 尚美	女川町立女川中学校 教頭	
5	河本 和文	東北学院榴ヶ岡高等学校 校長	欠席
6	佐藤 彰彦	仙台西高等学校 校長	
7	佐々木久晴	宮城広瀬高等学校 教頭	
8	中山 治彦	総合教育センター 所長	入選審委員・欠席

(教育庁)

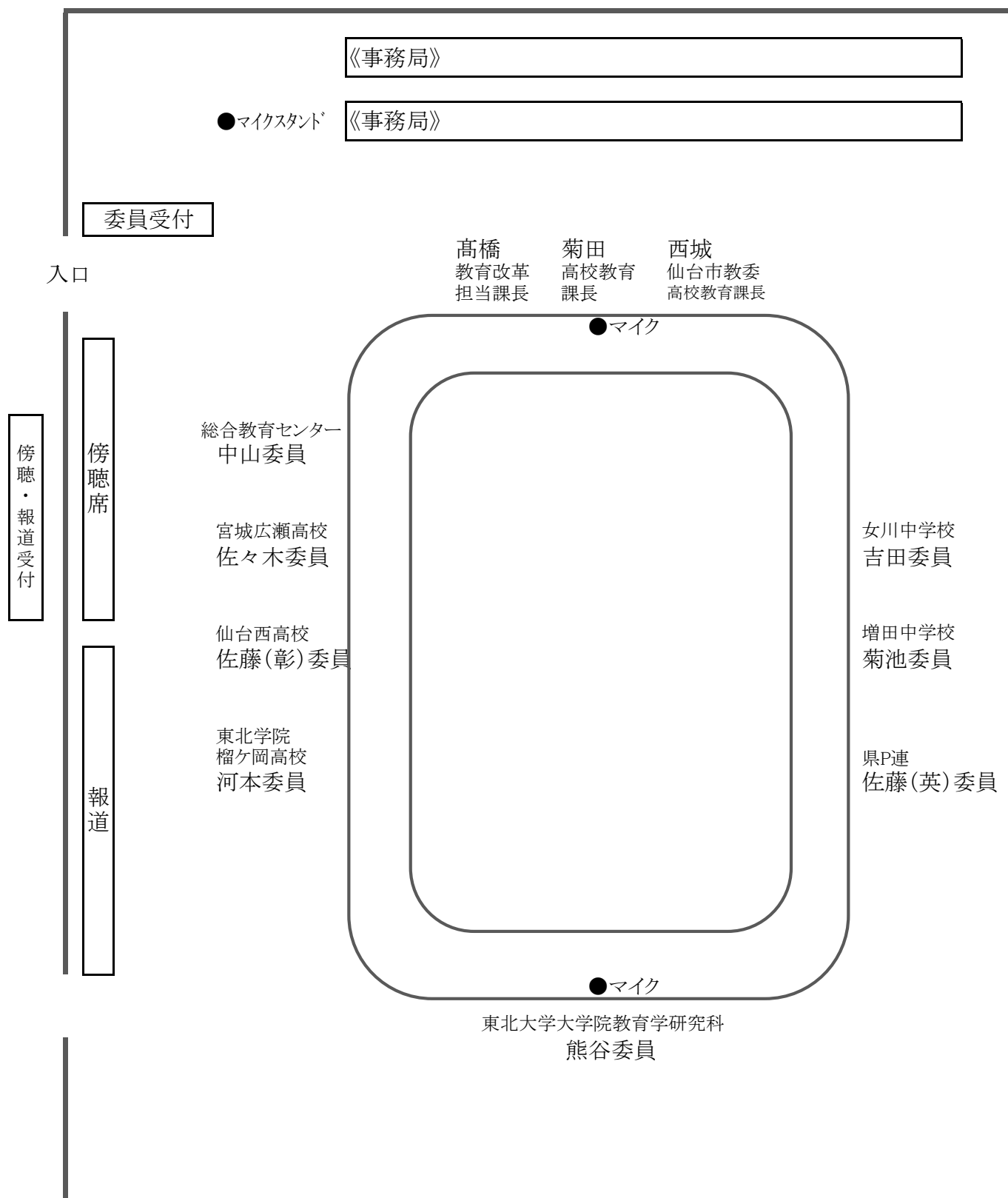
高校教育課	課長	菊田	英孝
	総括課長補佐	伊藤	大輔
	副参事兼総括課長補佐兼総括室長補佐	吉田	光輝
	教育改革担当課長	高橋	佳宏
	教育改革班 主幹	池田	和繁
	〃 課長補佐	滝井	隆太
	教育指導第一班課長補佐	上遠野	裕子
	〃 主幹	菅野	麻美
	〃 主幹	本郷	忍
	〃 主幹	岡田	康佑
	〃 主幹	菅野	準
	〃 主幹	佐々木	威芳
	教育指導第二班課長補佐	大澤	健史
	〃 主幹	田畑	洋行
	〃 主任主査	佐藤	光
	〃 主任主査	星	佳宏

(仙台市教育局)

学校教育部	高校教育課	課長	西城	光洋
	〃	指導主事	似内	朋子

令和6年度 高等学校入学者選抜審議会 第2回専門委員会 座席図

行政庁舎11階 第二会議室



第2回専門委員会 報告・審議関係資料

- (1) 【報告】第1回入学者選抜審議会における審議内容の確認について・・・1
- (2) 【報告】大阪府立高等学校の視察について・・・・・・・・・・9
- (3) 【審議】i d e a l スクールにおける入学者選抜の在り方について・・・12

現行入試制度における、例外的な選抜の在り方について

1 検討の趣旨

他都道府県では、特色ある教育を進めるにあたり、入試についても一般的な学力検査と調査書によらない選抜方法等を用いている事例が見られる。本県でも、今後、学びの多様化や少子化における高等学校の在り方など、高等学校の将来構想を進める中で、入試制度においても対応が求められるため、現行入試制度における例外的な選抜の在り方について調査研究を行う。

2 調査研究の経過

令和5年度第3回専門委員会（令和6年3月25日、県庁）において、他都府県の公立高等学校における特徴的な入試制度の事例について情報共有した。

（委員からの御意見）

- ・ 多様な学びに対する入試制度を様々な形で確保していくということは、今後必要な観点である。
- ・ 多様なニーズ、多様性のある子どもたちの受け入れという観点で、大学の総合型選抜のように、新たな仕組みの入試制度を、従来の入試制度とは別の形で考えていく必要がある。
- ・ どのような教育体系、教育システムを構築するかによる。その教育システムに合致する入試制度を検討する必要がある。

3 他都府県の状況

- 様々な背景を有する生徒の受け入れのため、学力検査や調査書によらない入試を実施
- パターンとしては、概ね次の通り
 - 〔学力検査〕実施（国数英社理）、一部実施（国数英）、実施しない、志願者が実施の有無を選択
 - 〔調査書〕提出（すべて記載）、提出（一部記載不要：評定、観点別評価 等）、提出不要
 - 〔面接〕あり、なし
 - 〔作文〕あり、なし
 - 〔その他〕志願申告書、副申書、教材配布（取り組みについて面接で確認）

（参考）

設置自治体	課程	学科	学力検査	調査書	面接	作文	その他
東京都	定・単	総	なし	なし	あり	あり	志願申告書
東京都	全・定・単	普・工	なし	あり（観点別評価）	あり	あり	志願申告書
神奈川県	全	普	なし	あり（観点別評価）	あり	なし	自己表現検査
大阪府	全・定・単	普・総	あり	あり	あり	なし	自己申告書
京都府	全	普	一部（国数英）	あり（欠席状況）	あり	あり	—
京都府	定・単	普	選択制（有or無）	あり	あり	あり	—
京都市	定・単	普	一部（国数英）	あり	あり	なし	学校作成教材 副申書
奈良県	全・定・通・単	普	あり	なし	あり	なし	—
鹿児島県	全・定・通	普 他	なし	なし	あり	あり	—

（課程）全：全日制 定：定時制 通：通信制 単：単位制

（学科）普：普通科 工：工業科 総：総合学科

4 本県における「新たなタイプ」の学校の設置

- 第3期宮城県将来構想で設置を検討されていた「新たなタイプ」の学校が、「i d e a l（アイデアル）スクール」として設置されることが公表された。

5 i d e a l スクールで現行の入試を実施する場合の課題点

- 現行の入試制度によらない入試も視野に入れた検討が必要となる可能性がある。
- i d e a l スクールでの入試を検討するにあたり、次のような例も含めて検討の必要がある。
 - ・ 共通選抜を実施しない（特色選抜を100%とする）ことができる。
 - ・ 学力検査の倍率を、一部又は全部の科目で0倍とすることができる。
 - ・ 受験生の意欲を計ることのできる学校独自の選抜方法を導入できる。

⇒学力検査の代わりとして学校独自検査の実施、エントリーシートの提出 など

[委員からの主な意見]

- ・ どのような教育体系、教育システムを構築するかによって、その教育システムに合致する入試制度を検討する。
- ・ 多様な生徒の受け入れを想定すると、現行の入試制度の枠組みでは難しい。現行の枠組みを利用しつつ柔軟に対応していくことや、複数の枠組みで入試を実施することも検討する必要がある。
- ・ i d e a l スクールにおける入試は先進的な例となる。今現在でも多様な生徒を受け入れている学校があり、そのような学校への応用も視野に入れて検討が必要。

6 今後の方向性について

- i d e a l スクールにおいて、どのような入試を実施するか、現行の入試制度にとらわれずに検討する必要がある。
- i d e a l スクールは、令和9年度の開校を予定していることから、令和7年度にはどのような入試を実施するのかを公表することが望ましい。

7 専門委員会の設置について

(1) 設置の経緯

令和6年7月25日に開催された第1回入学者選抜審議会において、専門委員会設置の必要性が検討された。

(2) 設置の理由

令和9年度開校を予定している i d e a l スクールには、様々な背景を抱えた生徒など、幅広い目的を持って出願することが想定される。したがって、i d e a l スクールで実施する入学者選抜においては、現行の入試制度によらない例外的な選抜方法も含めて、十分な検討が必要であるため。

(3) 調査研究の内容

i d e a l スクールにおける入学者選抜の在り方について

他都府県の公立高等学校における特徴的な入試制度

1 主に不登校を経験した生徒のための入試制度の事例

(1)	設置自治体	東京都
	学校名等	チャレンジスクール 六本木、大江戸、世田谷泉、稔ヶ丘、桐ヶ丘、小台橋の各校
	課程・学科等	三部制定時制、単位制、総合学科
	学校の特色等	小・中学校時代に不登校経験を持つ生徒や、長期欠席等が原因で高校を中途退学した者等を主に受け入れる。
	入試制度名等	東京都立高等学校チャレンジスクール入学者選抜
	入試制度の特徴	○学力検査は実施しない ○調査書の提出は不要 ○学校指定の志願申告書を提出
	選考の方法	面接、作文、志願申告書を総合した審査結果にて判定。

(2)	設置自治体	京都府
	学校名等	朱雀、乙訓、城陽、西舞鶴の各校
	課程・学科等	全日制、学年制、普通科 乙訓はスポーツ健康科学科、西舞鶴は理数探究科も設置
	学校の特色等	4校ともそれぞれに特色を持つが、不登校や学習のつまづきを経験した生徒だけを受け入れる学校ではない。
	入試制度名等	長期欠席者特別入学者選抜
	入試制度の特徴	○出願資格が「中学校在籍中、いずれかの学年で年間30日以上欠席がある者など」 ○報告書（宮城県の調査書に該当）が、長期欠席者特別入学者選抜専用のもので、評定や観点別評価などの記載欄なし。欠席状況やその理由等を記載。
	選考の方法	報告書、国数英の学力検査の成績、面接、作文を資料として選抜。

(3)	設置自治体	京都市
	学校名等	京都奏和高等学校
	課程・学科等	四部定時制、単位制、普通科
	学校の特色等	アドミッションポリシー（本校で学んでほしい人）が、「様々な困りや学びのつまづきなどを経験しているが、自分らしく学ぶことによる学び直しを希望している生徒で、なおかつ、他者の個性を認め合い、集団での学びの中で主体的に行動していきたいと考える生徒」
	入試制度名等	京都市立京都奏和高等学校特別入学者選抜
	入試制度の特徴	○出願資格が「不登校経験のある者や、行動や認知の特性により学びに困りがある者など、学び直しを必要とする者であり、中学校長が作成する出願資格に係る副申書又は副申書に準ずる届があるもの」 ○学校説明会時に、学校作成教材を配布、またチャレンジ活動について周知。いずれもその取組内容を面接での主な質問事項としている。
	選考の方法	独自学力検査（国語・数学・英語）、面接。各検査項目の得点をもとに、総合的に判断し選抜。

2 主に小・中学校で十分能力を発揮できなかった生徒のための入試制度の事例

(1)	設置自治体	東京都
	学校名等	エンカレッジスクール（蒲田、足立東、秋留台、東村山、中野工科、練馬工科の各校）
	課程・学科等	○蒲田、足立東、秋留台、東村山：全日制、学年制、普通科 ○中野工科：全日制、学年制、工業科・定時制・単位制・工業科 ○練馬工科：全日制、学年制、工業科
	学校の特色等	小・中学校で十分能力を発揮できなかった生徒のやる気を育て、頑張りを励まし、応援する学校として、社会生活を送る上で必要な基礎的・基本的学力を身に付けることを目的として、既設校の中から指定。基礎・基本を徹底するとともに体験学習を重視。
	入試制度名等	
	入試制度の特徴	○学力検査なし ○面接、小論文又は作文及び実技検査を実施。 蒲田、足立東、秋留台は実技検査なし 中野工科高校、練馬工科高校は小論文・作文なし
	選考の方法	面接、作文、調査書の観点別評価、志願申告書を総合した審査結果にて判定。自己PRカードを面接の際の資料として活用。

(2)	設置自治体	神奈川県
	学校名等	クリエイティブスクール（田奈、釜利谷、横須賀南、大井、大和東の各校）
	課程・学科等	全日制、学年制、普通科
	学校の特色等	一人ひとりが持っている力を必ずしも十分に発揮できなかった生徒に対して、これまで以上に学習意欲を高める取組を行う。
	入試制度名等	
	入試制度の特徴	○学力検査なし。 ○調査書は観点別評価のみを点数化
	選考の方法	調査書、面接、自己表現検査の合計値の高い者から総合的に選考。

(3)	設置自治体	大阪府
	学校名等	エンパワメントスクール （淀川清流、和泉総合、布施北、成城、岬、西成、長吉、箕面東の各校）
	課程・学科等	全日制、単位制、総合学科
	学校の特色等	自分の理解度に応じて基礎・基本から専門的な内容まで、「わかる喜び」を感じながら学べる。また、グループワーク形式や体験型の授業が多くあり、進路に役立つ学習ができる。
	入試制度名等	特別入学者選抜
	入試制度の特徴	○問題は基礎・標準の2種類から各学校が選択。エンパワメントスクールは基礎を選択 ○一般選抜と別日程で実施 ○第一手順（募集定員の50%）は学力検査順でなく、検査点が基準以上の者の中から選考。調査書は活動行動の記録のみが選抜資料
	選考の方法	第一手順は学力検査点が別途基準に達した者の中から、面接、自己申告書、調査書により総合的に判定。 第二手順は学力検査点（225点）、調査書評定（3年3倍、225点）を事前に公表する倍率タイプにより判定。

3 主に多様な学びに対応する学校の入試制度の事例

(1)	設置自治体	京都府
	学校名等	清明高等学校
	課程・学科等	昼間二部制定時制・単位制・普通科
	学校の特色等	基本コンセプトは「学びアンダンテ」、求める生徒像は「新たな一步を踏み出すために自分のペースで学びたい生徒」。 「学ぶ楽しさを提供する」「生徒に自信を返す」「教え込む教育から引き出す教育への転換」等を目標に掲げ、様々な背景を持つ生徒の、多様な学びのニーズへの対応と個別的な学びへの支援を行う。
	入試制度名等	京都府立清明高等学校特別入学者選抜
	入試制度の特徴	○独自学力検査あり、学力検査なしを選択して出願
	選考の方法	A方式(48名)は独自学力検査(国語・数学・英語)、面接、作文、報告書により選抜。B方式(72名)は面接、作文により選抜。

(2)	設置自治体	大阪府
	学校名等	クリエイティブスクール
	課程・学科等	○桃谷：多部制定時制、単位制、普通科 ○東住吉総合：全日制、学年制、総合学科
	学校の特色等	学ぶ時間帯が選べ、魅力ある多様な選択科目がある学校。
	入試制度名等	特別入学者選抜
	入試制度の特徴	○問題は基礎・標準の2種類から各学校が選択。クリエイティブスクールは基礎を選択 ○一般選抜と別日程で実施 ○第一手順(募集定員の50%)は学力検査順でなく、検査点が基準以上の者の中から選考。調査書は活動行動の記録のみが選抜資料
	選考の方法	第一手順は学力検査点が別途基準に達した者の中から、面接、自己申告書、調査書により総合的に判定。 第二手順は学力検査点(225点)、調査書評定(3年3倍、225点)を事前に公表する倍率タイプにより判定。

4 その他 調査書提出が不要な入試

(1)	設置自治体	奈良県
	学校名等	大和中央高等学校
	課程・学科等	多部定時制・通信制、単位制、普通科
	学校の特色等	「学びたいときに学べる学校」「学ぶ必要ができたときに学べる学校」。生徒自身が授業を選択して時間割を作成し、自分のペースに合わせた学習計画を立て、修得した単位を積み重ね卒業を目指す。
	入試制度名等	奈良県立大和中央高等学校入学者選抜
	入試制度の特徴	○調査書の提出不要
	選考の方法	特色選抜学力検査問題（県教育委員会作成）、面接により選考。原則として、各検査の合計点の多い者から順に選抜。

(2)	設置自治体	鹿児島県
	学校名等	開陽高等学校 全日制・定時制・通信制第1回選抜「自己推薦」
	課程・学科等	○全日制、単位制、普通科・福祉科 ○定時制、単位制、普通科・オフィス情報科 ○通信制、単位制、普通科・衛生看護科
	学校の特色等	3課程を併置し生活スタイルに合わせて志望できる。他課程の単位修得可（受講条件あり）。
	入試制度名等	第1回入学者選抜（推薦入学者選抜）
	入試制度の特徴	○全日制・定時制の推薦入学者選抜の「自己推薦」は調査書提出不要 ○学力検査なし
	選考の方法	「自己推薦」は自己表現、作文又は面接対話、提出された書類等により選考。

1 設置の背景と基本理念

- 生徒の興味・関心、進路希望の多様化
- 様々な背景を抱えた生徒の増加（学校生活や学習に困難を抱える生徒など）



- 新たなタイプの学校の基本理念
個に応じた多様な学びと、学習者中心の支援により、生徒の自律的な学びの実現と、将来の社会的自立に必要な資質・能力の育成を目指す。

2 新たなタイプの学校の概要

- 設置場所等 宮城広瀬高等学校を新たなタイプの学校に転換し、令和9年度に開校（予定）
※宮城広瀬高等学校は令和9年度に募集を停止し、令和10年度末で閉校
- 募集定員 200名
- 設置課程等 全日制・普通科・単位制

3 求める生徒像

- 次のような、多様な生徒を求めます

大学進学等の進路希望を実現するため、自分のペースで学びたい

興味関心や適性に合わせ自己決定しながら柔軟に学びたい

音楽活動やスポーツ等のため自由な時間を持ちながら学びたい

集団生活や対人関係に不安を感じているが、自分の適性に合わせて学びたい

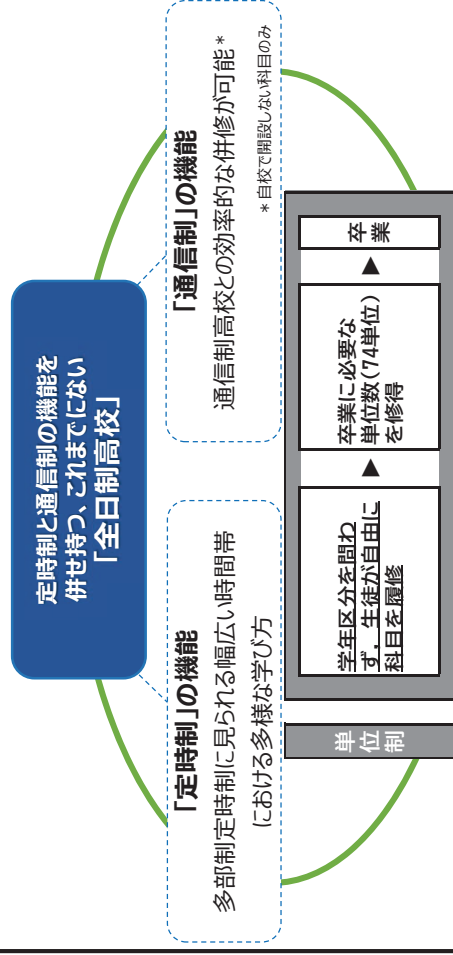
学習のつまづきの解消のため、基礎基本に戻って学びたい

学校に登校していない期間があったが、自分の状況に合わせて学びたい



idealとは「理想、理想的」という意味の英単語ですが、ここでは、各単語の頭文字を合わせた造語としての意味を重ねています。さらには、目指す教育の実現のために、多くのアイデア（idea）、工夫を追求していくという思いが込められています。

4 学校の位置付け



5 学校の特徴

I フレキシブルな学び方

- (1) 単位制の導入
- (2) 幅広い授業時間帯の設定
- (3) 通信制高校との併修*
- (4) 資格取得、ボランティア等を単位として認定

idealスクール

II 魅力ある学び

- (1) 探究的な学び
- (2) ICTを活用した学び
- (3) 地域等と連携した学び
- (4) 多様な人材を活用した学び

III 多様な教科・科目

- (1) 多様な進路希望に応じた教科・科目
- (2) 学び直しのための教科・科目
- (3) 習熟度別授業の導入

IV サポート体制の充実

- (1) チューター制の導入
- (2) 多様なスタッフ（スクールカウンセラー・ソーシャルワーカー、地域人材・NPO等）による支援

* 自校で開設しない科目のみ

6 幅広い授業時間帯

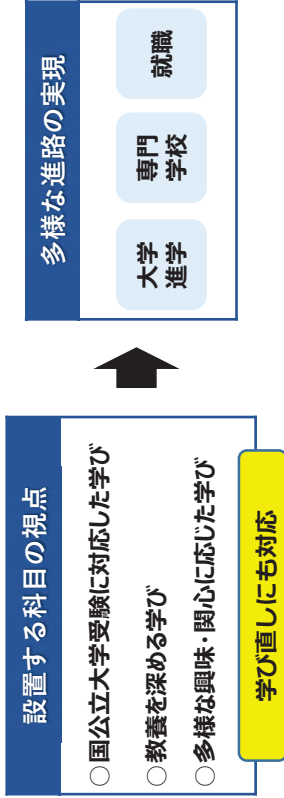
- 1～8校時の幅広い授業時間帯を設定し、生徒自身の生活スタイル、興味・関心等に応じて、主体的な授業選択が可能

1校時	2校時	3校時	4校時	5校時	6校時	7校時	8校時
主に選択教科・科目		コアタイム（主に必要修得科目・科目を設置） LHR及び総合的な探究の時間等も含む				主に選択教科・科目	

	1	2	3	4	5	6	7	8
多様な教科・科目	選	選	選	選	選	選	選	選
必修修得科目	必	必	必	必	必	必	必	必
コアタイム	選	選	選	選	選	選	選	選

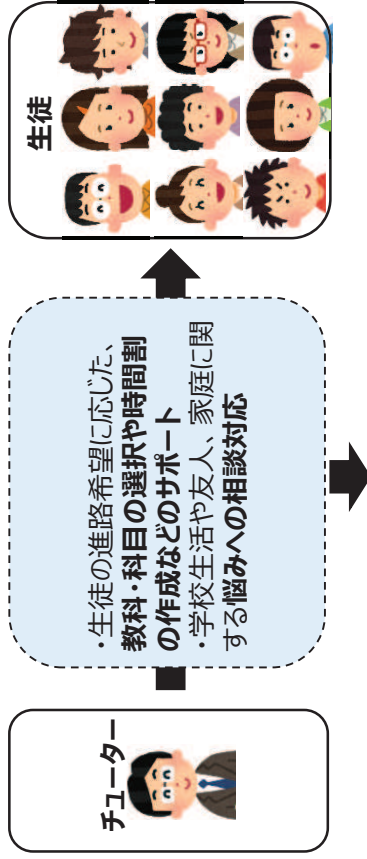
7 多様な教科・科目

- 多様な科目の設置に加え、資格取得やボランティア、他の高校での科目履修などの学校外学修等を幅広く単位として認定
- 将来の社会的自立に必要な資質・能力の育成に繋がる学びや多様な人材を活用した学びなど、魅力ある学びを実施



8 充実したサポート体制

- 従来の「学級」は置かず、チューター制を導入



生徒の希望する進路の実現や目標の達成

- 地域人材やNPO等とも協力してさまざまな側面からサポート体制を構築
- ICTを活用した生徒との連絡体制を構築

大阪府立高等学校の視察について

1 視察の目的

令和9年度開校を予定している i d e a l スクールでは、幅広い背景や目的を有する生徒の入学を想定しており、学力に基づいて選抜することが難しい志願者層にも対応した入学者選抜についても検討が必要である。そこで、検討に向けて情報と知見を得るため、先進的な取組を行っている大阪府立高等学校への視察を行った。

2 視察校

大阪府立成城高等学校 〒536-0021 大阪市城東区諏訪3-11-41

大阪府立中央高等学校 〒540-0035 大阪市中央区釣鐘町1-1-5

3 内容報告

(1) 大阪府教育庁 教育振興室 高等学校課

イ 府立高等学校の入試制度の概要について

- ・ 選抜には学力検査（5科目・各45点満点）、調査書、自己申告書を用い、学力検査：調査書は7：3～3：7（1刻み）で、各校で定める。
- ・ 各校の特色に応じて、実技検査や面接を実施する場合もある。
- ・ 2月の特別選抜では国数英の3科目について、A問題（基礎）、B問題（標準）から学校ごとに選択する。理社は共通。
- ・ 3月の一般選抜では国数英の3科目について、A問題（基礎）、B問題（標準）、C問題（発展）から学校ごとに選択する。理社は共通。
- ・ 調査書の記載項目は「学習の記録」と「活動／行動の記録」の2項目のみ。
- ・ 10月中旬に配布する「入学者選抜実施要項」において、自己申告書のテーマを発表し、本人自筆のものを提出する。
- ・ 各高等学校には入学者選抜実施上の留意事項等を記載した「実施細目」（非公開）を配布する。
- ・ エンパワメントスクール、クリエイティブスクールには「特別入学者選抜の第一手順に係る留意事項」（非公開）を配布し、面接の質問内容や評価方法などを周知している。
- ・ ステップスクールには「各校別面接実施マニュアルの作成に向けて」（非公開）を配布し、面接の準備を進めている。
- ・ 定員内不合格はなし。

ロ エンパワメントスクール（クリエイティブスクール）における入試の概要

- ・ 勉強が苦手、人間関係に不安がある、進路選択が決まっていないなどの悩みを持つ生徒を想定している。
- ・ 学力検査（5科目・国数英はA問題）、調査書、自己申告書、面接（集団）を資料として用いて選抜を行う。

《第一手順》

- ・ 学力検査の基準点に達した者の中から、定員の50%を上限として、高等学校のアドミッションポリシーに適合する者から順に合格としていく。

- ・ 面接（評価：A～J）2倍、活動の記録（評価：A～J）1倍、自己申告書（評価：A～J）1倍の割合で評価する。

《第二手順》

- ・ 基準点は設けず、学力検査と評定の総合点で選抜する。
- ・ 学力検査：調査書＝5：5に設定
- ・ 評定は1年：2年：3年＝1：1：3の比で算出し225点満点とする。

ハ ステップスクールにおける入試の概要

- ・ 義務教育段階までに学校生活での困りやつまずきを経験している生徒を想定している。
- ・ 学力検査（3科目・基礎）、調査書、自己申告書、面接を資料として用いて選抜を行う。
- ・ 個人面接を実施。面接時間10分間、内容を事前公表した上で、対面または筆答のいずれかから選択可能である。
- ・ 意欲に関する評価（面接）：学びに関する評価（学力検査＋調査書）を2：1の割合で評価し、選抜する。

(2) 大阪府立成城高等学校

イ 入試制度について

- ・ エンパワメントスクールの入試を実施している。

ロ 入学者選抜の方法について

- ・ 1日目：学力検査、2日目：集団面接（5人）
- ・ 面接は、府教委から配布される「特別入学者選抜の第一手順に係る留意事項」（非公開）に従って実施する。
- ・ 面接、自己申告書、調査書中の「活動／行動の記録」については、アドミッションポリシーに合致するかどうかを評価の基準としている。

※ 「部活動をがんばりたい」だけではアドミッションポリシーの1項目にしか合致しない

- ・ 不登校傾向にある生徒については、面接等を重視する選抜でも合格しにくい印象がある。

ハ 入学後の生徒の様子について

- ・ 第一手順、第二手順のどちらで合格したかは生徒には公表しておらず、教員も意識していない。手順の違いによる生徒の追跡調査などは実施していない。
- ・ 全体として、「勉強が苦手」、「コミュニケーションが苦手」という生徒が増加している印象がある。
- ・ SNSにおけるトラブルが多発している。スマートフォンについては、持ち込み可、使用不可としている。

ニ 入学後のミスマッチを減らすための取り組み

- ・ 中学校、保護者、生徒にどういう学校かを周知徹底している。
- ・ 3年間のストーリー（出口の確保）がわかるような見せ方を工夫している。
- ・ アドミッションポリシーに合致することを重視した選抜を行っている。
- ・ モジュール授業（学び直しの科目）として「数学基礎」などを学校設定科目として開設し、学習面でのつまずきを抱える生徒を支援している。

(3) 大阪府立中央高等学校

イ 入試制度について

- ・ クリエイティブスクールの入試を実施している。
- ・ 「学力検査・面接と調査書による選抜」と「学力検査と面接による選抜（調査書を要しない選抜）」の2種類の選抜方法を実施。
※ 「学力検査と面接による選抜（調査書を要しない選抜）」は過年度卒業者のみ選択できる。
- ・ 転編入学の枠（40名）あり。充足するまでは受け入れ可能。

ロ 入学者選抜の方法について

- ・ 面接の実施に向けて、事前にロールプレイを含む教員研修を実施しており、面接で声が出せない生徒、泣いてしまう生徒を想定し、発言しやすくなるような声掛けなどの対応も確認している。
- ・ 面接の回答内容については、アドミッションポリシーに合致しているかどうかを評価している。
- ・ 面接官は、アドミッションポリシーに照らして、回答内容が具体的であるものはA、回答内容が抽象的であるものはBというような評価を、チェックリストを用いて記録に残している。面接後に面接担当者間で合議を図り、面接の評価としている。
- ・ 自己申告書は、中学校の先生が指導した上で提出されるものが多いが、不登校傾向の生徒の中には指導を受けていないと見られる者もいる。
- ・ 中学校の指導を受けて自己申告書を書いていると思われる生徒もあり、文章は書けているが、面接では答えられないというケースもある。
- ・ 自己申告書の評価については、アドミッションポリシーと合致しているかという点で評価が高いものは、論理展開が整理され、かつ具体的な内容のものであるため、自ずと分量も多くなる。

ハ 入学後の生徒の様子について

- ・ 感触として、第一手順で合格した生徒と第二手順で合格した生徒の間に差は見られない。

ニ 入学後のミスマッチを減らすための取り組み

- ・ アドミッションポリシーに合致することを重視した選抜を行っている。
- ・ 広報に力を入れてはいるが、実態としては不登校傾向の生徒が増加している。素行に問題がある生徒も一定数いるが、退学する場合も多い。

i d e a l スクールにおける入学者選抜の在り方について

1 本県における現行入試制度について

(1) 現行入試制度の概要

選抜は、調査書、学力検査の結果に基づいて選抜する共通選抜と、調査書、学力検査の結果及び面接等の結果に基づいて選抜する特色選抜の2つの選抜方法により行う。

共通選抜と特色選抜の順序・方法等については、「求める生徒像・選抜方法一覧」による。

(2) 共通選抜

【選抜方法】

調査書点と学力検査点の満点を原点とした相関図を用いて選抜する。

【選抜の傾向】

調査書点と学力検査点を用いて選抜することから、学力上位層が選抜されやすい。

【選抜される生徒のイメージ】

調査書点、学力検査点の高い生徒

(3) 特色選抜

【選抜方法】

調査書点、学力検査点、各高等学校が募集単位ごとに実施した面接等の得点を合計し、その合計点を基に、調査書の記載事項も用いて総合的に審査し、選抜する。

【選抜の傾向】

調査書点および学力検査点について多様な割合を設定できる他、面接等の得点、調査書の記載事項も用いて総合的に選抜することから、学力だけによらない幅広い選抜が可能である。

【選抜される生徒のイメージ】

(泉高校・英語科) 英語の能力に秀でている生徒

(利府高校・スポーツ科学科) スポーツへの意欲と能力を兼ね備えた生徒

(田尻さくら高校) 基礎学力が身についており、高校生活に対する意欲の高い生徒

2 i d e a l スクールの求める生徒像について

- 大学進学等の進路希望を実現するため、自分のペースで学びたい生徒
- 興味関心や適性に合わせ自己決定しながら柔軟に学びたい生徒
- 音楽活動やスポーツ等のため自由な時間を持ちながら学びたい生徒
- 集団生活や対人関係に不安を感じているが、自分の適性に合わせて学びたい生徒
- 学習のつまずきの解消のため、基礎基本に戻って学びたい生徒
- 学校に登校していない期間があったが、自分の状況に合わせて学びたい生徒

3 i d e a l スクールの入学者選抜に期待されること

- i d e a l スクールでは、様々な背景を抱えた生徒の受け入れを想定しており、それぞれのペースや適性に合わせて学びたいという意欲のある生徒を求めていることから、単に学力を評価するのではなく、意欲の高さを評価することができる入学者選抜の実施が期待されている。

4 検討事項

- 学力検査について
- 調査書の扱いについて
- 面接について
- 志願理由書について
- 作文について
- その他の選抜方法について
- 意欲を測る選抜の在り方について

5 i d e a l スクールにおける入学者選抜実施までのスケジュール

年度	月	内容
令和6年度	7月	R6第1回入学者選抜審議会（専門委員会の設置）
	10月	R6第2回専門委員会（選抜の在り方の調査研究）
	11月	R6第2回入学者選抜審議会（調査研究中間報告）
	12月	R6第3回専門委員会（選抜の在り方の調査研究）
	3月	R6第4回専門委員会（調査研究報告案 審議）
令和7年度	7月	R7第1回入学者選抜審議会（調査研究報告）
		選抜概要について公表・周知
令和8年度	～10月	学校説明会
	2月	令和9年度入試 出願受付
	3月	令和9年度入試 入学者選抜
令和9年度	4月	開校